

台風10号に伴う緊急営農技術対策

平成15年9月4日
北海道農政部

土砂の堆積した草地の自力復旧技術対策

この技術対策は、日高・胆振支庁管内を対象としたものである。その他の地域については、流入土砂の種類、は種時期等に関して、関係試験場技術普及部と協議し対策を実施する。

1 流入土砂の特徴

- 1)表面は乾いていても、下層の方は水分が抜けていない。
- 2)土砂の種類は砂質、粘土質、これらに礫の混在しているものに分かれる。
- 3)堆積土砂の厚さは最大60cm程度までである。

2 牧草密度や土砂の堆積深に応じた対応

1)牧草密度が維持されている場合

2番草を刈り取っていない場合は、刈り取りをしてほ場外に持ち出し、堆肥散布等を行う

2)牧草密度が維持されていない場合

(1)堆積土砂の厚さが5cm以下の場合

播種床の造成はロータリー耕又はプラウ耕によりもとの土層と混合する。

(2)堆積土砂の厚さが5cm以上の場合

ア 播種床の造成

播種床の造成は土壌ができるだけ乾いた状態で行う

土壌のpHは必ず測定する。

砂質の場合

・ロータリー耕又はプラウ耕で混合可能な程度の土砂の厚さであれば、もとの土層と混合する。この場合、もとの土層が2割以上混合することが必要である。

・もとの土層との混合割合が2割以下になるようであれば排土する。

粘土質の場合

・ディスク施工 :ディスク(1~2回) - ローラー - 播種 - ローラー

施肥量、播種量は一般草地更新時と同じでよい。

・普通耕起(プラウ耕またはロータリ耕)

礫が混在している場合

排土する。但し、ロータリー耕で混合できる範囲であれば排土の必要はない。

滞水後にできた粘土質の層で表層にひび割れが見られる場合

・ロータリー耕又はプラウ耕により、もとの土層と混合する。

土層が乾いた状態（スコップで掘り、粘土の塊を指でつぶした時に指にくっか
ず崩れる状態）で施工する。

イ 播種時期

年内播種の場合

イネ科草種を播種する。

9月上旬が理想であるが、チモシーの場合は9月中旬まで可能である。

表1 播種期別 越冬立毛数（火山性土、早来）

草種	9月8日	9月18日	9月28日
チモシー	282 本/m ²	259 本/m ²	17 本/m ²
オーチャードグラス	147 本/m ²	43 本/m ²	0 本/m ²
メドーフェスク	291 本/m ²	35 本/m ²	0 本/m ²

（昭和56年道指導参考事項道央地域における混播牧草の秋期造成に関する試験）

来年播種の場合

慣行法による

ウ 播種量

採草地 2kg/10a 放牧地 2.5kg/10aを目安とする。

エ 施肥量

草地更新の施肥標準に従う

・石灰資材 pH測定し6.0~6.5に改良するに必要な量

・窒素 4kg/10a

・リン酸 20kg/10a

・カリ 8kg/10a

3 今後の雨対策とほ場の乾燥促進対策

1)可能であれば、深さ25cm程度にチゼル耕を行う。出来ればクローラ型トラクターで行う

2)土壌凍結初期に行ってもよい。